

彩の歳時記

令和 一年 八月

ばんりよく
万緑の中や吾子の 齒生え初むる

中村草田男【1901～1983】

近代俳句を代表する名句。「万緑叢中紅一点」の中の言葉で以後、季語として定着。

「万緑」は初夏の新緑よりもさらに「深く強い真夏の生命力溢れる緑」を想像させます。「万緑」の語は王安石【1021～1086】の漢詩『詠柘榴』の一節「万緑叢中紅一点」の言葉で「紅一点」はこの詩が起源。「一面の緑の中に咲く紅色の花」が転じ、「多くの中で異彩を放つ物」の例え。太陽が恋しく長かった梅雨が明けると炎天下に陽炎が立つ八月、心地よい「空調空間」の中ばかりではなく、万緑の中に「夏」を感じてみるのもよいものです。



八月の暦

葉月 木の葉が繁茂し、次第に落ちてくる頃「葉落ち月」が転訛。

一日 八朔(はっさく) 徳川家康が江戸城入城した日。大名らが正装(白帷子)で登城し祝辞を述べた。遊郭でも遊女が白無垢の小袖を着て祝い、客も白い雪を見るような涼しげな景観を楽しんだ。

東北の夏祭

盆休み・帰省の時期で、多くの祭が東北の街を彩る。



慰霊のある月

立秋を挟む二つの原爆忌・終戦記念日・お盆のある月

六日 広島原爆忌 1945年のこの日から、早、74年。約14万人が死亡、25万人(原爆症を含む)

以上の犠牲を生んだ出来事も生存者の高齢化に伴い薄れつつある危機に。非核を求め世界平和を祈念する慰霊祭が原爆ドームで行われる。原発再開の姿勢が問われる。



七日 立秋【二十四節気】秋立つ日 長梅雨の後で、短い夏になる予感が。

九日 長崎原爆忌 「万千人が死亡。平和記念像は神の愛と仏の慈悲を象徴し垂直に揚げた



右手は原爆の脅威を、水平な左手は平和・横にした足は原爆投下直後の長崎の静けさ立てた足は救った命を表現、薄く閉じた目は犠牲者の冥福を。

十一日 山の日 2016年からの祝日。当初の十二日予定は日航機墜落日のため、その前日に変更された。

十三日～十六日 月遅れのお盆 古来からの祖先崇拜信仰と仏教が結びついた行事。

十五日 終戦の日 戦没者を追悼し平和を祈念する日とし全国戦没者追悼式を政府が主催。



十五日 長崎精霊流し 盆前に死去した人の遺族が霊を弔う手作り船を造り、

船を曳きながら街中を練り歩き極楽浄土へ送る仏教行事。



十六日 五山送り火「京都を囲む五山で大文字など五種類の送り火

が焚かれる。盆に迎えた精霊を再び冥府に送る。

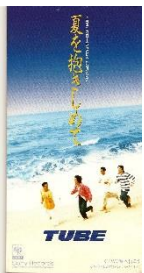


二十三日 処暑【二十四節気】暑さが和らぐ。萩の花が咲き始める。

八月の歌

夏を抱きしめて 詞 前田巨輝【1965～】 曲 春畑道哉【1966～】

1994年リリース。夏が来たと感じさせられる(TUBE(ロックバンド)のバラードの名曲。今もJPOP作品で人気。トヨタ自動車(カローラセレス)のCMソング。明るい楽曲は、80年代の曲の特徴で90年代の曲に元気がなくなってきたと感じるリスナーを元気づけた作品。亡き西城秀樹もオリジナルとは違った魅力の力強い歌声で人気に。昭和恋愛ソングに特徴的なストロートな歌詞。



夜も眠れないほど
胸を締めつける想い
もう二度とこんなに誰かを
愛せるなんてないだろう
この恋感じて 君と二人で夏を
抱きしめて
駆け抜けたい どこまでも
乾く風の沖 壊れそうなのを
抱きしめた
この気持ち止められぬ
好きだよ 後略